(100)輔仁大學碩士班招生考試試題	考試日期：100 年 3 月 18 日第 2 節
	本試題共 2 頁 (本頁為第 / 頁)

科目：日文作文　　系所組：日本語文学系碩士班

以下に示した文章は、竹内敏晴著『ことばと身体の戦後史』の一節です。この文章を読んで、以下の問いに答えてください。

なお、解答はすべて縦書にし、一行30字で記述してください。

ことばを対象化するという態度は、観客ばかりの問題ではない。話し手、語る主体自身の声としての自らのことばに対しても同じ態度が成り立ち得る。自らの声をコントロールし、さまざまに操作して変化させる技術は、技術者にとって必須のものであるに違いない。だが、①操作の精緻さが話しことばの芸術的あるいは人間的表現をもたらすものだと考えるのは錯覚あるいはむしろ偏見である。それがどれほど根深いか？

哲学者メルロ＝ポンティは二十世紀において「身体」について最も深く考察した人と言ってよいであろうが、かれの短い生涯の晩年は言語に関する研究に集中したようである。私などは断片的にしか理解することが出来ないが、和田町子氏の文によると、かれは「ことば」に二種類あると考えていたという。私なりの理解をことばにすれば、その一つは、既に社会的に意味が確立しており互換可能な語句を組み合わせて文を作る、情報伝達のための言葉である。他の一つは、「生きて語ることば」「表現の瞬間に生成する言語」などと呼ばれる。情念、イメージなどがあるが、からだの奥の闇からわずかに姿を現して「ことば」の形に「なる」瞬間をさすのであろう。私はこれを「今、生まれ出ることば」と呼びたい。こう呼ぶとメルロ＝ポンティーの意図するところと少しズレるかな、という怖れも持つが、かえって鮮明にするか、という思いにもある。

社会生活の中で、②人は前者を獲得しなくては生きてゆけない。だが、それは操作し利用することはできるが、それによって人は生きるという感じを持つことはできない。後者が生まれ出る瞬間、人は生きることを体感する。それは常に私たちのからだの内に、あるいは世界に満ちて、待ちかまえている。近づいてくる。だがそれを把えるのは、というより把えたと自覚することは、いかに難しいか。この作業に生涯をかけたものを人は詩人と呼ぶ。が、無自覚の中に子どもは原則として常にこの世界にいるのだ。③そして敢えて言えば、ことばに障害をもつものが、その全身をかけて発する一語もまたつねにこの種の言葉であり、それ故に、社会的に流通不能であることも多いのである。

だとすれば、たとえば、詩を、声に発して「よむ」ということは、一度生まれ出た、しかしそのまま凝固されて文章化し印刷され、ものと化した「ことば」を、再び「今、生まれ出る」姿そのものによみがえられる作業だ、と言い得るだろう。それは情報伝達のための音操作という技術では跳びこえることの不可能な次元に立っている。

※ 注意：1.考生須在「彌封答案卷」上作答。
2.本試題紙空白部份可當稿紙使用。
3.考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。

(100)輔仁大學碩士班招生考試試題	考試日期：100 年 3 月 18 日第 2 節
	本試題共 2 頁 (本頁為第 2 頁)

科目：日文作文　　系所組：日本語文学系碩士班

（1）傍線部①の部分でいう「錯覚あるいはむしろ偏見」とはどのような「錯覚」「偏見」があると言っているのですか。この言葉の意味を文章の内容に即して説明してください。(150 字以内) 20%

（2）傍線部②について、以下に示した a, b の二点を明らかにして、説明してください。答えは箇条書きで書かないでください。文章で書いてください。(150 字以内) 20%

a 前者と後者はどのような点が異なるのか？

b どうして「前者」を獲得しなければ生きていけないのか？

（3）傍線部③で筆者は「全身をかけて発する一語」が、「それ故に社会的に流通不可能であることも多い」という例を挙げているが、この例は「ことばによって生きた」が「ことばを利用することはできなかった」という、ことばの姿の提示しています。

あなた自身の＜言語習得経験＞あるいは＜文学経験＞（=文学を読んだ経験でも、文学作品として何かを書いた経験でもよい）をもとにして、「全身をかけて発する一語」が「社会的に流通不可能である」ことについて考えたことを論じてください。あなた自身の＜言語習得経験＞あるいは＜文学経験＞について論じられたものならば、どんな切り口からの論でもかまいません。(400 字程度) 60%

※ 注意：1.考生須在「彌封答案卷」上作答。
2.本試題紙空白部份可當稿紙使用。
3.考生於作答時可否使用計算機、法典、字典或其他資料或工具，以簡章之規定為準。